

宮城の海を救え！！

～ゲームを通しての海洋教育～

14 海の豊かさを
守ろう



B7班

背景

2050年、魚より海洋プラスチックが多くなるという予測を知り、自分たちになにかできることはないかと考えた。

目的

宮城県の海洋汚染問題をゲームを通して多くの人に知ってもらい、身近なものに感じてもらう。

調査・実験の方法

○砂の実験

採集：砂浜に行き、25cm四方の範囲で砂を集める
深さはスコップの長さくらい

方法：水が入ったバケツに採集した砂を入れてザルでふるい、砂を乾燥させる。
貝殻とマイクロプラスチックを見分けるためにお酢につける。

調査・実験結果

場所	プラスチックの有無
気仙沼	無
南三陸	無
蒲生	有 / 少 
七北田川	無
荒浜	有 / 多 

宮城の海にもマイクロプラスチックがある！

ゲームについて

私たちが調べたことや宮城の海で実際に起こっている問題と宮城県の魅力も伝わるようなゲームを作成

〈構成〉

- ボードゲーム形式
- 参加人数：4～8人
- 対象者：小学生～高校生

〈ゴール〉

それぞれの参加者が助け合いながらゲーム内で起こる問題を解決する

〈ルール〉

- ①それぞれの参加者が海と関係のある役職をもつ
- ②サイコロを振ってコマを進めていく
- ③各マスにイベントがあり他の参加者と話し合ったりコインを利用して問題の解決や対策に役立てる
- ④ゴミの量を指標として設定された上限に達するとゲームオーバー

まとめ

- ・宮城県の海にもマイクロプラスチックが存在するということがわかった
- ・ゲーム制作と実験を通して宮城県の海洋汚染問題について深い理解が得られた。
- ・マイクロプラスチックによる海洋汚染が如何に進行しているか認識できた。
- ・実験のデータが不十分だったように感じた。
- ・もっと多くの人にゲームをしてもらいたかった。

参考文献

2020年度武蔵学園「うみの環境にしらべ隊」活動報告書（最終閲覧8.27）

[https://getnavi.jp/world/404572/\(baby legs\)](https://getnavi.jp/world/404572/(baby%20legs))